

難治性感染症治療薬の創製に向け 中国上海中医薬大学・韓国圓光大学と 共同研究協定

(2010.12.13)

中国上海中医薬大学、韓国圓光大学と難治性感染症（マラリア等の熱帯病、C型肝炎など）の治療



▲圓光大・金学権副学長(右)、上海中医薬大・謝建群副学長(中)と本学・曾良達生副学長(左)

薬開発へ向けた共同研究協定を締結しました。
豊富な天然資源を保有する上海中医薬大、人獣共通感染症の研究が活発な圓光大、マラリア新薬開発研究を通じ、シーズ発掘から臨床試験に至るすべての医薬品開発のシステムを持つ本学がそれぞれの強みを生かし、新薬の創製を目指します。知的財産面での取り決めも明文化しており、日中韓の3大学が研究成果に関する共通のルールを定めるのは極めて画期的です。

フランス・ストラスブール大学と 大学間交流協定を締結

(2011.1.21)

フランスのストラスブール大学と大学間交流協定を締結しました。昨年7月に同大政治学院と社会文化科学研究科が部局間で結んだ交流協定を全学に拡大したものです。この協定により全学部・研究科で同大との学術交流・学生交流が可能となりました。
ストラスブール大学で行われた調印式には、同大のアラン・ベレッツ学長、アンヌ・クレーブIIペリシエ副学長、本学の佐藤豊信副学長、荒木勝社会文化科学研究科長ら関係者が出席。ベレッツ学長と佐藤副学長が協定書を交わしました。



▲右から許南浩医学部長、荒木研究科長、佐藤副学長、ベレッツ学長、ペリシエ副学長、清水耕一経済学部長

既に社会文化科学研究科とストラスブール大学政治学院との間で実施している教員の派遣に加え、今後は自然科学研究科、医歯薬学総合研究科でも教員・学生の交流を行う予定です。

駐日セルビア大使が 本学を訪問

(2010.12.10)



駐日セルビア共和国大使館のイヴァン・ムルキッチ特命全權大使とアレクサンドラ・コヴァッチ書記官が本学を訪れ、千葉喬三学長らと会談しました。
本学は、同国ノヴィサド大学と大学間交流協定、ベオグラード大学哲学部と本学文学部とで部局間交流協定を締結し、学生の相互派遣・受入を盛んに行っています。また、文学部では全国的にも珍しいセルビア語の授業を開講しています。
会談では、ムルキッチ大使と千葉学長の間で現行の部局間協定を大学間協定に発展させ、学生交流・研究交流を充実させることなどが話し合われました。

▲イヴァン・ムルキッチ大使(右から4番目)とアレクサンドラ・コヴァッチ書記官(左から3番目)を囲んで

「鹿田荘」の謎に迫る 発掘成果展を開催

(2011.1.6-10)



鹿田キャンパス周辺の発掘成果展「謎の荘園鹿田荘―集落・条里・領域―」が創立五十周年記念館で開かれました。
鹿田荘は古代から中世にかけて鹿田キャンパス周辺にあった、全国で四箇所しかない藤原摂関家の代表者が代々受け継いだ荘園の一つとされています。しかし、鹿田荘の範囲など、多くの点は未解明のまま。同展では、関連遺跡の調査研究に携わってきた本学埋蔵文化財調査研究センター、岡山県教育委員会、岡

山市教育委員会の成果をはじめ一堂に集め、鹿田荘の謎に迫りました。
文字を書ける有力者の存在を推測させる硯や土器、陶器といった出土品約200点、平安から鎌倉時代にかけての鹿田荘一帯の変遷が一目で分かる景観復元イラストなどを展示。来場者は出土品を手にとったり、研究者の説明に耳を傾けたりして歴史ロマンに思いを馳せていました。

ベトナムカフェで学生が ベトナム人留学生らと交流

(2010.11.12)



ベトナム人留学生と学生・教職員の交流イベント「ベトナムカフェ」を行いました。
本学は、ベトナムに現地事務所を設け、同国・ダラット大学に教員を派遣するなど同国との交流を重点的に進めており、学生に同国へ関心を高めてもらうため企画。この日は「ベトナム語に挑戦！〜ブシ編〜」と題し、来日中のベトナム現地事務所職員や長期派遣経験がある日本人教員が、同国の情報や文化などを紹介した後、日本人学生がベトナム人留学生からベトナム語を学びました。
カフェは今後も定期的に行う予定。今年3月には同国でのフィールド研修も計画しています。

